



# 2017

## Free The Children Japan Annual report

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 2017 年度年次報告書



「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に WE Free The Children  
認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

# Our Story

1995年、カナダに住む12歳のクレイグは学校に行く前にマンガを読もうと新聞を手にしたところ、ある記事に目が留まりました。

## 「児童労働の廃絶を訴えていた12歳のパキスタン少年、射殺！」

～パキスタン人のイクバル・マシーは、とても貧しい家庭の出身で4歳のとき、両親から引き離され絨毯工場に売られてしまった。1日10時間以上の労働を強いられていたが、工場から脱出できNGOの助けで児童労働反対をうったえる活動家として世界をまわっていたが、母国に戻った時何者かに殺害された。～

クレイグは、同い年のイクバルの死や、世界に奴隷のように働かされている子どもがいることにショックを受け、同じ子どもの問題なら、自分たち子どもで取組もうと「Free The Children (FTC)」を設立しました。

その後クレイグは実際に児童労働の現状を学ぶため中学1年生になると南アジア5カ国をまわる50日間の旅に出ました。そこで、マザーテレサやノーベル平和賞を受賞したカイラシュ氏に出会いました。

そして、クレイグの創造をはるかに超える過酷な環境で働くたくさんの子どものために世界に伝えるため、カナダに帰国後、旅の体験記を本にまとめたりスピーチをして世界をまわるようになりました。

現在、FTCはカイラシュ氏、マララ氏をはじめ多くの著名人と共に、全ての子どもが教育を受けられるように一緒に活動しています。フリー・ザ・チルドレンの活動は世界的に認められ、創設者のクレイグは今まで3回ノーベル平和賞にノミネートされています。



1997年、アメリカのNGOに所属していた中島早苗（現代表）がFTCとクレイグの活動を知り団体の理念に賛同し日本に紹介しようと、帰国後1999年に日本支部を設立しました。以後、日本の子どもたちが活動に参加するようになり、現在1,500人以上の子どもたちがメンバーとなって国際協力や国内の子どもを巡る課題に取り組んでいます。その活動は様々で、児童労働を伝えるためにウォークを企画し実施する子どもたち、開発途上国の働く子どもの状況を学び、支援するため手作り雑貨やお菓子を販売しその売り上げを世界の子どもの教育事業に寄付をしたり、世界の貧困問題を伝える動画を作って配信したり、支援先を訪問する海外ボランティアツアーに参加したり、いじめの問題に取り組みスピーチをして子どもの権利についてうたえたり、自分の特技を活かして社会問題を解決するためのアクションを起こしています。

# Our Vision

世界中のすべての人々が【誰一人取り残されることなく】社会に参加し、国籍・宗教・年齢・性別・障害の有無・文化に関係なく、違いや個性が尊重され、互いに勇気づける多様性のある社会。

# Our Mission

上記のビジョンを達成するために、子どもの権利を守り、子どもの可能性を引き出すことが大切だと考えていることから

## ふたつの「Free」を目指します。

1

国内外の貧困や差別から  
子どもをFreeに（解放）する。



2

「子どもには世界を変えられない」  
という考えから、  
子どもをFreeに（解放）する。



# A note from Chairperson of the Board

## 代表挨拶

2017年度のハイライトは、組織が目指すビジョンとゴールを見直し、再設定し、2020年までの3年間で重点的に取り組むべき事業計画と目標を定め、具体的な活動に落とし込んで事業に取り組んだことです。また、より良い事業を効率的に進めるために、新たな理事や業務委託スタッフを迎えて事業計画を練り直し、推進できたこともハイライトとして特筆できることです。左ページ下部に2017年に再設定した新しい団体のビジョン、ミッションを掲載いたしました。併せて2017～2030年の活動方針をご紹介します。

【2017年～2030年の活動方針】ビジョン達成には、国際社会で合意したSDGsの達成が不可欠と考え、SDGsで掲げる目標やターゲットの中から団体で取り組むべき課題を選び、活動していきます。

フリー・ザ・チルドレンでは、特に子どもや若者に関係することや影響を与える問題については、子ども若者自身がその問題について知り、学び、解決に向けて行動を起こすことに意義があり、重要であると考え、団体の理念である「子どもは未来だけでなく、今日のリーダーでもある」をさらに打ち出し、子どもや若者の可能性や力を育て、後押しをしながら、適切な情報を提供し、彼らにグローバルとローカル両方の課題への取組を促すことが、SDGsの達成へと繋がる重要なアクションだと考え、下記を2017年の重点活動として注力しました。

- ① WE Day 及び WE Schools 事業を展開するためのチームを設置し準備活動開始
- ② 子ども若者の力や可能性を伸ばすリーダーシップトレーニング活動の強化
- ③ 権利を著しく奪われ困難に直面している開発途上国の子どもやその家族への国際協力活動
- ④ 事業を行うために必要な管理部門での環境整備

こういった様々な活動に取り組めたのも、多くの方々からのご支援やご協力があったからこそだと感じています。ご協力下さった皆様にご心よりお礼申し上げます。組織のビジョン達成に向け、今後も引き続きどうぞ宜しくお願い致します。

代表理事 中島 早苗



## TABLE of CONTENTS もくじ

2	フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとは		
4	A LOOK BACK AT 2017 ― 2017 年度を振り返る		
6	子ども主体事業・子ども活動応援事業	12	自立支援事業
10	アドボカシー事業	17	緊急支援
		18	会計報告
		19	ご支援・ご協力いただいたみなさま・メディア掲載



# A LOOK BACK AT 2017

たくさんの方々のご支援によって、国内外の子どもたちへの支援を行うことができました。  
みなさまからの温かいご支援、心より感謝申し上げます。

Members

新規メンバー登録数：

119人

メンバー合計：1,500人

(2017年12月末)



好きなこと×国際協力。

自分の好きなことや特技を活かして、全国でメンバーが活動しました。



# Workshop

出張授業・ワークショップ実施回数

**106**回 **92**カ所訪問

参加人数：**12,642**人



各地で出張授業・ワークショップを実施しました。



フィリピン・インド・ケニア・日本で  
自立支援事業を実施しました。



# Donation

2017年度ご寄付・募金合計

**17,499,017**円



## ▶子ども主体事業・子ども活動応援事業

# Take Action Camp

子どもや若者を対象にした合宿型リーダーシップトレーニング・プログラム「テイク・アクション・キャンプ」。子ども達自身が、「子どもには世界は変えられない」という考えから脱し、子どもや若者が社会問題や国際協力活動に取り組むためのやる気とスキルを習得できるようなプログラムです。

### in カナダ

7/27～8/7にトロントで実施している Take Action Camp に日本の子ども若者が参加できるよう企画運営を行っています。日本からは中高生5名が参加しました。

このキャンプの参加者の多くはカナダや近隣国からの中高生で、英語漬けの毎日。地域での問題について、世界で起きている問題について、ワークショップを通じて学び、それぞれの意見を話して、考えを深めたり、チームワークを深めるアクティビティをしたり、たくさん考え、話し合い、体を動かしたキャンプでした。



### ＼ 参加者の声 ／



Nさん  
参加当時 中学3年生

私が今回のテイクアクションキャンプに参加したのは、キャンプの内容がリーダーシップトレーニングを含んでいるとあったからです。世界で今起こっている問題には、元から関心があって、私になにができるか考えていましたが、私はそのような問題を解決するには自分一人の力では足りないと思っていたので他の人をまとめて、一緒に問題を解決するためのリーダーシップトレーニングに参加できるとあった事と、現在私は学校の科学部の部長を務めているので、たくさんの人を上手くまとめる方法を学びたいと思っていたので、今回のキャンプに参加することを決めました。

私にとって、このテイクアクションキャンプは初めての参加だったので、新しい体験がいろいろありました。海外留学は、学校の修学旅行で行ったのですが、このようなキャンプは初めてで、知らない人がほとんどの環境でキャンプを行うことは、最初は、少し心細かったのですが、自分から積極的に意見を発したり、たくさんの人達に話しかけると、どんどん楽しくなってきました。

ディスカッションにしっかり意見を言うと、同じグループの仲間が様々な意見を返してくれることで、自分が持っていなかった考えを取り入れることもできる上に、新しい友達も作れて、次のアクティビティも待ち遠しくなりました。どのクラスも内容はとても楽しいものばかりでした。

春は5月4日～6日に東京都世田谷区で、夏は8月14日～18日に千葉県柏市でテイク・アクション・キャンプ・ジャパンを実施しました。アクティビティやワークショップ、ディスカッションで自分の人生を振り返る、チームワークスキルをアップする、国内外の社会問題について知る、自分の考えを深める、アクションを実際に起こす、今後のアクションプランを考える、その想いを伝えるというプログラム内容で、5月のキャンプには小学生から高校生まで19名が参加、8月のキャンプには34名が参加しました。日本のキャンプでは、参加者に年齢の近い大学生がファシリテーターとして参加し、子どもたちの学びや気づきのサポートをしてくれました。



## ＼ 参加者・保護者の声 /

### 参加者の声

- 今まで社会問題には直接関係ないと思っていた自分が、キャンプを通じて社会問題を身近に感じ、「何か自分にも出来ることを。」と思うようになりました。
- いつもは消極的で自分から一切発言しない自分が、積極的に自分から発言していることを実感して、自分にこんな一面があったんだと自分の変化を知れて嬉しくなり、これから積極的に自分からアクションを起こしてみようと思えるようになりました！！

### 保護者の声

- 普段の生活のなかで以前よりも自発的な行動がみられるようになり、前向きになりました。
- これまでに見た事がないほど、自信に満ちた姿で帰宅し驚きました。
- 英語の大切さを感じたようで、英語の勉強に力を入れ始めました。



# Youth empowerment

子どもたちのやってみたいという気持ちを引き出し、社会問題を解決するために行動する子どもたちの育成やサポートをしています。

## チーム活動

フィリピンチーム（チョコレートプロジェクト）、スピーカーチームが主に活動を行いました。フィリピンチームは国際協力のお祭り、グローバルフェスタでボディペイントを実施、ミンダナオ島 マラウイ市避難民の復興支援として、寄附付きチョコレートの商品開発、デザイン、パッキングを行いました。

スピーカーチームのメンバーは、学校などの出張授業に参加し、自身の経験などをスピーチし、大学生はワークショップのファシリテーターとして授業に参加する生徒さんたちのサポートを行いました。

### 参加者の声

「のげ青緑日やグローバルフェスタでは新しく始めた、ボディペイントやハナでフィリピンチームのことを宣伝出来たと思います。

チョコプロでは昨年より多くの人がパッキングや銀座販売を手伝いに来てくれたのが嬉しかったです！

パッケージデザインや表紙の絵は、沢山パターンを出し条件の中でどうしたら目を引いてくれるかを考えたり、値段や売り方、紐の色など細かい所までフィリピンチームのメンバーで決めることは貴重な体験になりました。銀座で皆で声をあげて販売するのも楽しかったです！

今年もっとフィリピンチームの活動が広まるよう頑張ります！」

(高校2年生 Mさん)



## メンバーサポート

メンバー登録をした子ども達へイベントや活動の情報を定期的に流したり、電話やメール、オフィスでの対応を通じて子どもメンバーが主体的に活動できるようサポートを実施しました。

新しく活動を始めるメンバーのサポートとして、メンバーとの交流、団体の紹介やボランティア作業を通じて、その後のアクションにつながるよう、毎月2回ウェルカムデーを実施しました。

また、学校や地域で活動するグループの活動サポートも行き、書き損じはがきや一円玉募金、物資寄附など様々なアクションが見られました。





## ▶外部ネットワーク

# Net Working

様々なセクター、組織と連携・協働しネットワークを構築することで、FTCJ のビジョン、ゴールを実現することを目指しています。

### 児童労働ネットワーク (CL ネット)

5月5日～7月31日にかけて「ストップ! 児童労働キャンペーン 2017」を開催。情報発信は Facebook や Twitter 等の SNS を中心に情報発信をしました。また、レッドカードを掲げて写真を撮影し、同時にアクションを表明する「レッドカード+1 アクション」を実施。参加者は 5,154 人となりました。11月にアルゼンチンで行われた児童労働の持続的な撤廃世界会議に参加するために、6月12日～7月31日まで、Readyfor を通じてクラウドファンディングを通じて無事資金調達ができ CL ネット加盟団体スタッフ 4 名で参加しました。会議では①児童労働の持続的な根絶 ②強制労働・人身売買・現代奴隷の廃絶 ③質の高い若者雇用創出 の3つのトピックが話し合われました。12月9日には報告会を実施しました。さらに児童労働問題解決に向け、政府・企業・市民社会がどのように取り組むべきか検討するため研究会を実施しました。



### JNNE / 世界中の子どもに教育をキャンペーン

4月15日～5月31日にかけて途上国の教育の現状や教育援助の不足について学ぶ授業が実施され、47都道府県の506校・グループ、43,493人が参加しました。

5月17日、衆議院第一議員会館で、7年目となる「国会議員のための世界一大きな授業」を開催した。当団体のメンバーの高校生8名が「先生」、国会議員18名に対して、途上国の子どもをテーマに授業を行った。JNNEからはNGOの提言などを伝えました。

6月28日、JNNEのメンバーと高校生は外務省で、牛尾滋NGO担当大使(国際協力局参事官地球規模課題担当)と面会し、全国の「世界一大きな授業」参加者から寄せられた「首相・外務大臣への手紙」を手渡し、「日本から途上国の子どもたちへの教育援助をもっと増額してください」と申し入れました。



### 日比 NGO ネットワーク

フィリピンのより良い開発支援のための NGO・NPO 間での情報交換や外務省や企業との連携のためのネットワークで、代表の中島早苗が運営委員を務めています。ミンダナオ島マラウイ市で発生した紛争により避難民が発生したことから、緊急支援を実施しました。8月と12月には勉強会を実施しました。



**教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) :** 開発途上国の子どもへの教育支援を行っている NGO によるネットワーク。登録団体間での情報交換、勉強会を実施しています。また、外務省との意見交換や政策提言なども行います。世界の全ての子どもへの良質な基礎教育提供を目指し、世界の EFA (万人のための教育) 運動とつながって国内でのアドボカシーや政策提言などのキャンペーン活動を行っています。

**児童労働ネットワーク (CL ネット) :** 児童労働の廃絶に向け、勉強会、キャンペーンなどを行っています。児童労働問題に取り組む NGO、労働組合、その他非営利組織、個人で構成されています。

**日比 NGO ネットワーク (JPN) :** フィリピンでの開発支援活動を行う日本の NGO とフィリピンの NGO によるネットワーク。フォーラムや外務省との懇談会、団体間での情報交換を実施しています。参加しています。賛同団体としてネットワークに参加し、活動を実施しています。

## ▶アドボカシー事業

# Speaker and Workshop

## 出張授業・講演会・ファシリテーター養成プログラム

全国の学校や企業、イベントなどへファシリテーターを派遣し、生徒などの参加者の方々が社会問題を身近に感じ「自分は無力だ」という考えを捨て、「自分にもできる」という自分の可能性に気づくことのできるプログラムを提供しました。また、出張授業に同行するファシリテーターの育成にも取り組みました。

助成協力：日本財団、電通育英

### 2017年度 出張授業 106回、92カ所訪問、参加・対象人数：12,642人



#### PICK UP あやの台小学校 講演会

和歌山県にある橋本市立あやの台小学校を訪問し、講演会を行いました。橋本市立あやの台小学校は、5年前に創立された新しい学校で、校舎の中心に学校のみなさんが自然と集えるようなデザインとなっていて吹き抜けのある明るい素敵な学校でした。この学校では、ESD教育（持続可能な発展を実現するために発想し、行動できる人材を育成する教育）を推進していて、子どもたち自身が学び、考え、行動することを促す様々な取り組みをしています。

例えば、学校の敷地の一部に畑を設置して、児童の皆さんがその畑で無農薬野菜を栽培します。学校内では高学年生が子ども会社を設立し、商品を100円で販売する「エコマート」を運営しており、野菜は収穫後そこで販売しているとのことでした。その野菜の売り上げを、先日、世界の貧困で大変な状況にある子どもたちのために使ってほしいとフリー・ザ・チルドレンに寄付として送ってくれました。

そこで、今回、みなさんが野菜などの売り上げで1年間を通じて集めてくれた寄付が、どう使われているのかや、そもそも、どうして開発途上国に暮らす子どもたちを支援しているのかについてお話をさせていただくためにも、学校を訪問しました。

講演会を聞くために集まってくれた5、6年生や保護者の方や先生方を対象に、貧しさのため働かなくてはいけない子どもや、学校にいけない子ども、きれいな水が飲めない子どもなどの実情や、フリー・ザ・チルドレンが、どのような支援活動をしているのかをお話ししました。

1時間以上もの講演会でしたが、みなさんがとても真剣に話を聞いてくださり、たくさんの質問を出してくれたこと、大変うれしかったです。そして、児童のみなさんが積極的なのは、社会課題に目を向け、子どもとしてどうしたらよいかを考える機会が日頃からあるからだろうと、思いました。5、6年生の自主性を育てるような取り組みをされている校長先生、特に、担当の中谷先生の熱意には、非常に感銘を受けました。



## ＼ Action Story ／



Kさん  
あやの台小学校 6年生

学校に講演に来てくれた中島さんの話を聞いて、私の好きな絵の力を生かして、世の中のため、困っている子供たちのために活動したい。そう思いました。元担任の中谷先生の発案で、私のイラストでポストカードを作って売ってみることにしました。私は、ただ売だけでなく、そのお金で何かをしたいと考え、販売で得た利益を寄付しよう決めました。ポストカードは235枚売れ、作った値段などを引いて5000円の利益が出ました。この活動について熱心に聞いて下さるお客さまもいて、とても嬉しかったです。



## 2017 年度 出張講演先

▶保育園：1 カ所 ストライプハウス ほいくえん

▶小学校：3 カ所 稲城市立長峰小学校、橋本市立あやの台小学校、大東市立北条小学校、川村小学校

▶中学校：17 カ所

お茶の水女子大学附属中学校、横浜市立藤の木中学校、葛飾区立本田中学校、横浜市立平楽中学校、横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校、西東京市立保谷中学校、横浜市立大綱中学校、町田市立真光寺中学校、川崎市立宮内中学校、葛飾区立東金町中学校、読谷村立読谷中学校、相模原市立相原中学校、世田谷区立桜丘中学校、世田谷区立桜木中学校、千代田女学園中学校、相模原市立緑ヶ丘中学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校

▶中学・高等学校：4 カ所 聖ヨゼフ学園中学校・高等学校、共愛学園中学・高等学校、盈進中学高等学校、くま国際アカデミー中等部・高等部

▶高等学校：25 カ所

栃木県立小山市立南高等学校、神奈川県立有馬高等学校、立命館宇治高等学校、東京都立芦花高等学校、大阪府立能勢高等学校、第一学院高等学校、東京都立国際高等学校ボランティア部、沖縄県立中部農林高等学校、八戸聖ウルスラ学院高等学校、和歌山県立星林高等学校、盛岡中央高等学校、市原中央高等学校インターアクトクラブ、埼玉県立春日部女子高等学校、奈良市立一条高等学校、大阪府立今宮高等学校、沖縄県立沖縄水産高等学校、栃木県立益子芳星高等学校、東京都立世田谷総合高等学校青森県立青森南高等学校、愛知県立時習館高等学校、ノートルダム学院高等学校、青森県立八戸高等学校、兵庫県立猪名川高等学校、カリタス女子高等学校

▶大学・専門学校：15 件

立教大学、筑波大学附属視覚特別支援学校、国際研究部、法政大学、広島大学、神戸女学院大学、文学部総合文化学科、沖縄国際大学福祉ゼミ、神戸女学院大学文学部北川ゼミ、NPO 大学、国際基督教大学、上智大学外国語学部、国際基督教大学特別学習支援室、日本福祉大学、国際基督教大学協会、大阪 YMCA 国際専門学校高等課程表現・コミュニケーション学科、山梨大学国際協力サークル Change!!!

▶その他団体、イベント：28 件

ワン・ワールド・フェスティバル、和歌山県視覚障害者協会、ソーシャルビジネス研究会、フィリピンスタディーツアー報告会、Joyful English Camp、アイセック早稲田大学委員会、西宮市教育委員会人権教育推進課、アイセック上智大学委員会・慶應大学委員会、NPO 大学、野毛坂グローバル、世田谷区国際課、ESD 日本コースカンファレンス 2017、グローバルフェスタ 2017、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン（内部研修）、アジアリーダー塾、伊藤国際教育交流財団、パーソナル・ケア吉祥寺、視覚障害者 大学生有志グループ、世田谷区立野毛青少年交流センター、内閣府障害者週間「連続セミナー」、児童労働ネットワーク、グローバルチャレンジプログラム、JANIC、ピナット、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、児童労働ネットワーク、Wake Up Japan、IMPACT JAPAN 2017、ファシリテーター養成プログラム

# Public relations and Events

## イベント出店・物販・広報・資料開発

グローバルフェスタワン・ワールドフェスティバルなどに店出し、団体紹介や世界の子どもの現状を伝えるパネル展示、フェアトレード商品の販売を行いました。イベントではメンバーだけでなく、たくさんのボランティアさんに支えられブースの運営をすることができました。



### PICK UP

#### ＼マサイ族のお母さんの手作りアクセサリ－／



ラフィキチェーン  
¥1,350

大人にも、中学生にも大人気！ケニアのマサイ族のお母さん手作りのビーズラフィキチェーンです。長さが120cmあるので、ネックレスにしたり、重ね付けしてブレスレットにしたり、ヘアアクセサリにしたり、自分好みにアレンジしてお使いいただけます♪これからの季節にぴったりのアクセサリです。

これらの収益は We village で実施している海外自立支援事業の教育、水、保健、収入の機会拡大、農業と食料の5つの事業への寄附となります。オンラインストアよりお買い求めください。右記 QR コードよりアクセスいただけます。



- ◇ 2016 年度年次報告書
- ◇ ニュースレター年3回、アンニュアルレポート1回 600部発行。
- ◇ メールマガジン 2 回発行、登録者約 4,000 人。
- ◇ WEB ページは随時更新、1 日平均 700 アクセス。



# International programming

## 事業実施国一覧

自立支援事業では、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの目的の1つ「国内外の貧困や差別から子どもを Free(解放) する。」の実現に向け、権利が奪われている開発途上国の子どもたちやその家族を支援しています。

## ケニア ..p16

### <事業内容>

ケニア深井戸建設及び  
給水システム確立事業



## インド ..p15

### <事業内容>

1. 西ベンガル州 CCD マクタニール養護施設運営
2. 西ベンガル州ハロア開発地区子ども若者自立支援
3. ラジャスタン州貧困農村地域自立支援



## スタディーツアー

### <事業内容>

..p17

- ・フィリピンスタディーツアー 2017 春~子どもと触れ合うボランティアの旅~ (3/25-3/31)
- ・インドスタディーツアー 2017 夏~インドの村で子どもに出会う、ボランティアの旅~ (8/6-8/12)

# 日本

..p17

<事業内容>

熊本復興支援



# フィリピン

..p14

<事業内容>

1. 先住民族の子どもへの教育支援
2. 性虐待や刑務所から救出された子ども支援
3. ミンダナオ台風被災地公立学校農業科支援
4. 障害者支援
5. ミンダナオ島 マラウィ紛争による  
国内避難民緊急復興支援

## ▶海外事業

# Philippines

## フィリピン



### 先住民族の子どもへの教育支援

2014年より台風被害を受けているミンダナオ島のピナンジャン村に住む台風被害を受けた中等教育を受ける子どもたちを対象に現地パートナー団体 KPAC (Konkokyo Peace Activity Center) を通じて通学支援を行っています。

2017年度は手紙で交流しながら子どもを支援する文通プログラムを通じて保護者と学校とのミーティングを実施、子どもたちに体操着の配布、家庭訪問や学校訪問をして通学のフォローアップを行いました。家庭訪問や保護者会の実施によって、子どもたちの通学をサポートする家庭が多くなりました。

### ミンダナオ島マラウイ紛争による国内避難民緊急復興支援

ミンダナオ島マラウイ市で発生したフィリピン軍と過激派組織「イスラム国」(IS) 系武装勢力「マウテグループ」およびバングサモロ・イスラム自由戦闘隊との武力衝突により、50万人以上の住民が自宅から近隣の町に避難し、2万5千人以上の住民が避難所での生活を強いられていることを受け、現地 NGO と、日比 NGO ネットワーク (FTCJ) が参加するフィリピンで事業を展開する日本の NGO のネットワーク組織) を通じて、避難生活を送る人々への生活用品や飲料水及び食料品、子どもへの文房具などの物資援助を提供しました。10月には政府より終結宣言が出されたものの、略奪や破壊が進んだ町にはすぐに戻れないことから、復興支援に切り替え、現地調査を行いました。



### 障害者支援

2016年よりクラウドファンディング Readyfor にて資金調達を開始、無事目標金額の800万円を集めることができ、2017年からフィリピンマニラにある国立盲学校にて、寮の修繕工事を開始、点字プリンターを購入しました。盲学校には170人以上の生徒がいますが、これまでは点字プリンターは1台のみでした。今回の購入で2台に増えたことで、生徒たちにより多くの教材が素早く提供できるようになりました。

日本国内では出張授業で共生社会をテーマに取り上げ啓発に取り組みました。



### 性虐待や刑務所から救出された子ども教育支援

ルソン島サンパレス州オロンガボに位置する現地パートナー団体ブレダ基金を通して、性的虐待・搾取を受けた少女や、路上や刑務所から救出された少年への教育、貧困地域への自立支援活動を実施しています。

2017年度はいただいたご寄付やフェアトレード商品の購入を通じて支援を行い、保護している子どもたちの学習支援、セラピーやカウンセリングを実施しました。



### ミンダナオ島台風被災地 国立学校農業科支援

助成協力：一般財団法人まちづくり地球市民財団

ミンダナオ島ダバオ・オリエンタル州バガンガ地方バクリン村にあるバクリン公立ハイスクールに通う11学年50人の学生と、3人の教員を対象とし、学校に通う生徒が将来持続可能な農業を営めるよう専門知識や技術(有機農法及び持続的農業手法)を習得し農家として自立するための農業科支援を2016年度より実施し、2017年度は事業後のフォローアップやモニタリングを行いました。



# India

## インド



### CCD マクタニール養護施設運営支援

現地パートナー団体 CCD(center for Communication and development) を通じて、路上や児童労働などから救出され施設で生活する子どもと CCD が支援する貧困家庭で暮らす子どもが学校に通え、栄養ある食事で健康に暮らせるように、手紙を通じて交流しながら子どもを支援する「文通プログラム」を通して集まった資金やその他指定寄付を使い支援を行いました。

具体的には学校に通うために必要な制服や文房具、ワークショップ教材費や、食費の提供、健康医療支援プログラムのために支援金を活用しました。また、施設では美術や体育などの情操教育を通し、より豊かな心身の発達を育てています。



### ハロア開発地区子ども・若者自立支援

助成：大阪コミュニティ財団

現地パートナー団体 CCD(center for Communication and development) を通じて西ベンガル州ハロア開発地区に暮らす貧困家庭の子どもや若者に対して、自立できるよう収入向上のための職業訓練セミナーを提供し、自立できるようセミナーを実施しました。

また、虐待や児童婚などの課題から子どもを守るために、子どもの権利を伝える子ども若者グループを育成、子どもの権利について勉強会を開き、地域の子ども及びおとなが権利についての知識を得る機会を作りました。



### 貧困農村地域 自立支援

ラジャスタン州ラジサマンド地方農村地域では、降雨量が少なく半乾燥地帯のため、またインフラ整備も進んでいないため、農作物の収穫が伸びず、村人は現金収入が少なく貧困から脱却が難しい状況です。そこで現地パートナー WE Charity(旧 FTC インターナショナル) を通じて人々が貧困から抜け出し自立できるよう5つの柱(教育、水、保健衛生、生計維持、食糧農業)をたてて包括的に支援を行いました。

事業や建設をこれからも継続し、生徒たちにとってカルタナ村の小学校が、安全で勉強に集中できる場となり、充実した学校生活を送れる場となることを目指します。

# Kenya

## ケニア

### 自立支援－深井戸建設及び給水システム確立支援

助成：TOTO 株式会社 水環境基金

ケニアナロック群 南ナロック県エシノニ村にて、深井戸建設及び給水システム確立プロジェクトを実施しました。この地域には井戸がないために子どもや女性たち村人は1日に何時間も費やし、15キロ離れたところまで水汲みに行かなければならず、半乾燥地帯であり乾季には頻繁に水不足になっていました。そこで、この村の1200人の重任がきれいな水にアクセスできるよう、深井戸の新規建設及び給水所を村内に設置し、今後、給水所を村人によって持続的に運営管理できるよう、村人の人材育成、研修を行いました。

### ＼ エシノニ村に住むお母さんにお話を伺いました ＼

私は学校には行っておらず、15歳で結婚し、7人の子どもと暮らしています。家には水道がありません。なので毎日水を8km先の川まで汲みに行っていました。1日生活するのにだいたい20ℓの水が必要で、8kmの距離を運ぶのはとても大変です。ですが、その川では動物が水浴びしたり飲んだり、人々が洗濯や体を洗うための場所としても使われていて、汲んでいる水も衛生的ではありませんでした。水が原因で感染症にかかることも珍しくはありませんでした。



ネッパバさん

エシノニ学校の施設に給水所ができたことで、汚い水を食事に使う必要がなくなりとても安心して生活できるようになり、そして水を運ぶ必要がなくなり、生活が改善されました。



# WE Charity (旧 FTC インターナショナル)

### 自立支援－収入向上支援

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの母体団体の WE Charity(旧 FTC インターナショナル)を通じた、中南米(ハイチ、エクアドル、ニカラグア)やアフリカ(シエラレオネ、タンザニア、エチオピア)、中国農村部における貧困などの現状を日本の人々に伝え、5つの柱(教育、水、保健衛生、収入、農業食糧)の側面から包括的に国際協力を行う貧困農村開発自立協力事業を行っています。

2017年はハイチの中央プラトー地区マリアラバでの自立支援事業を実施しました。



# Japan

## 日本



### 緊急支援

2016年4月に九州地方で発生した大地震の被災地域の熊本を中心に復興支援を実施しました。

寄附：ベネッセ子ども基金 特別協力：株式会社チヨダ

熊本で震災後入院している子どもたちが、少しでも安心して過ごせるように、くま蒙のぬいぐるみをプレゼントする一般社団法人ドリーム・ラボ主催のプロジェクトに賛同し、ぬいぐるみの購入費やその他事業にかかる経費の寄付を集めました。



# Sturdy tour

## スタディツアー

春・夏休みに観光ツアーでは知ることの出来ないような現地の方々の生活を体験し、日本の生活が当たり前ではないという世界の現実を体感するスタディツアーを行っています。現地ではボランティアや現地の人々・子どもたちとの交流だけでなく、学びを深めるディスカッションやワークショップも実施しています。

### フィリピン

3月25日～31日まで6泊7日の日程で実施され、中学生1名、高校生10名、社会人1名の合計12名が参加者として集まりました。東京・熊本・大阪・京都の地域からの参加があり、学校も年齢も住んでいる地域も違う者同士が7日間を共に過ごしました。フィリピンソン島サンパレス州オロンガボ周辺及びマニラ首都圏を訪問し、ツアー中は、ところどころで集まり、発見したこと、感じたこと、疑問などをみんなで共有し、学びを深めました。そして帰国後には報告会を実施しました。



- DAY1 成田集合→フィリピンマニラ着→オロンガボ車へ移動
- DAY2 虐待から救出された少女保護施設、交流（オロンガボ泊）
- DAY3 フェアトレード生産者訪問、先住民コミュニティ訪問・交流、ホームステイ（オロンガボ泊）
- DAY4 住民族コミュニティにて交流、刑務所や虐待から救出された子ども保護施設訪問（オロンガボ泊）
- DAY5 マニラのスラム地域訪問・子どもたちと交流（マニラ泊）
- DAY6 マニラ観光、国立盲学校訪問・子どもたちと交流、（マニラ泊）
- DAY7 アドボカフェ訪問、自由時間→フィリピンマニラ発→成田空港



### 参加者の声



フィリピンに行って幸せについて一番考えました。スラムの人たちや不便な生活をしている人たちが幸せじゃないと勝手に決めていたのですが、でも実際に見てきたことで不便だから幸せじゃないとか、お金がないから幸せじゃないとかじゃなくてフィリピンの人たちは自分たちの事だけじゃなくて、自然の事、村の人の事、家族のことを便利な生活よりも第一に考えていて「みんなが笑ってるから幸せ」という風に感じました。フィリピンに行って吸収したことを伝えるのが間近で見てきた私たちにできることだと思っているので伝えていきます。このスタディツアーに参加したことは人生の選択肢を増やしてくれました。参加して本当に良かったです。（参加当時 高校2年生 Mさん）

### インド

8月6日～12日の5泊6日の日程で実施され、今回も全国各地からの参加者が集まりました。インドの支援先のラジャスタン州やデリーの観光地を訪問。子どもたちとの交流や学校建設のボランティアを行いました。中学生1名、高校生6名、大学生1名、社会人2名の合計10名の参加者となりました。年齢も住んでいる地域も違う者同士で、インドで学んだこと・感じたことの共有、そして自分たちに何ができるかを考えました。帰国後には報告会を実施しました。



- DAY1 成田空港集合→インド・デリー空港着→ホテルへ
- DAY2 アグラへ移動しタージマハル、アグラ城見学後、ジャイプールへ移動し岩台列車でウダイプールへ
- DAY3 ラジャスタン州ウダイプール駅到着、観光、宿泊施設へ移動後、ヘナ体験ワークショップ、散策
- DAY4 ヨガレッスン、ヒンディー語レッスン、支援先の村訪問・交流、リーダーシップトレーニング、カナダのユース参加者との交流、インドのカースト制度についてレクチャー
- DAY5 支援先の村訪問・ボランティア、絞り染め・スタンプ（木版）染め体験ワークショップ、インド料理体験ワークショップ、リーダーシップトレーニング、スペシャルディナー
- DAY6 ヨガレッスン、ウダイプール空港→デリー空港へ、デリー空港→国際線で日本へ
- DAY7 成田着



### 参加者の声

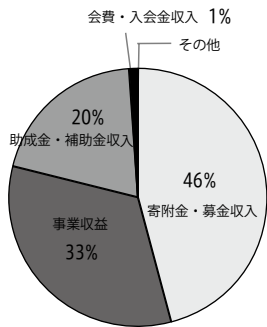


今回のスタディツアーではインドのたくさんの文化にふれ、普段できないような貴重な体験をたくさんしました。特に印象に残ったのが、村の学校を訪問して子供たちと交流したこと。最初は、言葉の通じない中でどうコミュニケーションを取ろうか心配だったのですが竹トンボや紙風船などの日本のおもちゃを渡すとみんなが私の周りに寄ってきて子供たちみんなが笑顔になって私たちも自然と笑顔になりました。今回のスタディツアーでたくさんのことを学んだので吸収するだけでなく、今回学んだことを生かして何か社会問題に対する行動を起こしたいです。世界中の子供たちが笑っていられたような世界にしたいと思いました。また、インドで見てきた光景を忘れずに困っている人たちのために何かできることを考えたいです。（参加当時 高校2年生 Kさん）

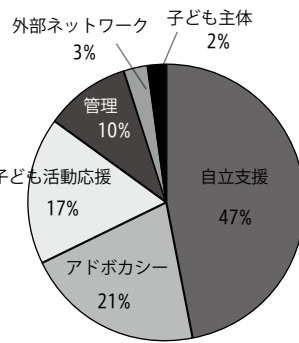


▶活動計算書

科目	予算額(単位:円)		決算額(単位:円)		達成率
	小計	合計	小計	合計	
<b>I 経常収益</b>					
1. 会費・入会金収入					
正会員会費	240,000	240,000	250,000	250,000	104.2%
2. 寄付金・募金収入					
寄付金・募金	23,800,000	23,800,000	17,499,017	17,499,017	73.5%
3. 事業収益					
自主事業収益	5,800,000	5,800,000	7,714,322	7,714,322	133.0%
4. 助成金・補助金収入					
助成金	12,610,000	12,610,000	12,719,808	12,719,808	100.9%
5. その他収入					
受取利息	2,000		157		
雑収入	10,000		22,000		
為替差益	0	12,000	6,829	28,986	241.6%
<b>経常収益合計</b>		<b>42,462,000</b>		<b>38,212,133</b>	<b>90.0%</b>
<b>II 経常費用</b>					
1. 事業費					
(1) 人件費					
給料手当	8,746,000		8,910,591		101.9%
福利厚生費	630,000		86,112		13.7%
法定福利厚生費	0		1,333,567		
人件費計		<b>9,376,000</b>		<b>10,330,270</b>	<b>110.2%</b>
(2) その他経費					
商品材料	260,000		328,359		126.3%
支援金(支払い寄付金)	17,750,000		11,193,752		63.1%
旅費交通費	7,299,220		6,697,915		91.8%
印刷製本費	842,100		888,175		105.5%
通信運搬費	1,009,500		684,287		67.8%
広報宣伝費	130,000		284,040		218.5%
消耗品費	462,000		799,977		173.2%
什器・備品	900,000		0		-
業務委託費	700,000		883,052		126.2%
研修・施設会場費	240,000		222,464		92.7%
地代・家賃	1,260,000		1,257,764		99.8%
水道光熱費	125,000		137,867		110.3%
保険	54,000		51,314		95.0%
諸会費	90,000		95,300		105.9%
支払い手数料	243,000		1,185,453		487.8%
為替差損	-		939		-
雑費	60,000		60,880		101.5%
租税・公課	60,000		70,000		116.7%
その他経費計		<b>31,484,820</b>		<b>24,841,538</b>	<b>78.9%</b>
事業費計		<b>40,860,820</b>		<b>35,171,808</b>	<b>86.1%</b>
2. 管理費					
(1) 人件費					
給料手当	¥1,856,000		2,150,754		115.9%
福利厚生費	¥0		21,528		
法定福利費	¥70,000		¥148,176		211.7%
人件費計		<b>1,926,000</b>		<b>2,320,458</b>	<b>120.5%</b>
(2) その他経費					
旅費交通費	¥170,000		142,921		84.1%
印刷製本費	¥130,000		132,925		102.3%
通信運搬費	¥90,000		141,102		156.8%
消耗品費	¥63,000		99,375		157.7%
業務委託費	¥400,000		536,960		134.2%
研修・施設会場費	¥40,000		31,200		78.0%
地代・家賃	¥300,000		314,441		104.8%
水道光熱費	¥35,000		34,468		98.5%
支払手数料	¥10,000		9,118		-
雑費	¥2,000		0		-
その他経費計		<b>1,240,000</b>		<b>1,442,510</b>	<b>116.3%</b>
管理費計		<b>3,166,000</b>		<b>3,762,968</b>	<b>118.9%</b>
<b>経常費用合計</b>		<b>44,026,820</b>		<b>38,934,776</b>	<b>88.4%</b>
当期経常増減額		-1,564,820		-722,643	46.2%
棚卸資産除去損				-29,372	
経常収支増減額				-693,271	
当期正味財産増減額				-1,142,510	
前期繰越正味財産額				17,587,538	
次期繰越正味財産額				16,445,028	



2017年度 収入内訳



2017年度 支出内訳

▶貸借対照表

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
<b>【流動資産】</b>		<b>【流動負債】</b>	
(現金・預金)		未払金	2,042,194
現金	197,253	預り金	246,946
小口現金	159,997	流動負債計	2,289,140
普通預金	17,839,081	<b>負債の部合計</b>	<b>2,289,140</b>
外貨	177,881	<b>正味財産の部</b>	
流動資産合計	18,374,212	現金・預金計	18,374,212
<b>【固定資産】</b>		(棚卸資産)	
(有形固定資産)		商品	340,426
什器・備品	316,258	棚卸資産計	340,426
減価償却累計額	△ 316,258	流動資産合計	18,714,638
有形固定資産計	0	<b>正味財産の部合計</b>	<b>16,445,028</b>
(無形固定資産)			
電話加入権	19,530		
無形固定資産計	19,530		
固定資産合計	19,530		
<b>資産の部合計</b>	<b>18,734,168</b>	<b>負債・正味財産の部合計</b>	<b>18,734,168</b>

▶事業費内訳

1. 重要な会計方針  
 財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日NPO法人会計基準協議会)によっています。  
 同基準では、特定非営利活動促進法第28条第0項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。  
 (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
 棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は総平均法によっています。

2. 事業費の内訳  
 事業費の区分は以下の通りです (単位:円)

科目	子ども主体	子ども活動応援	外部ネットワーク	海外自立支援	アドボカシー	合計
(1) 人件費						
給料手当	4,817	2,015,213	214,322	2,435,369	4,240,870	8,910,591
福利厚生費	17,222	17,222	17,222	17,223	17,223	86,112
法定福利費	266,713	266,713	266,713	266,714	266,714	1,333,567
人件費計	288,752	2,299,148	498,257	2,719,306	4,524,807	10,330,270
(2) その他経費						
支援金	0	0	0	11,193,752	0	11,193,752
商品材料	0	0	0	328,359	0	328,359
旅費交通費	1,728	3,016,110	83,532	2,606,464	990,081	6,697,915
印刷製本費	78,290	253,520	78,290	113,710	364,365	888,175
通信運搬費	27,562	92,337	28,534	99,895	435,959	684,287
広報宣伝費	0	0	0	284,040	0	284,040
消耗品費	90,252	161,884	110,252	302,682	134,907	799,977
業務委託費	3,984	273,984	3,984	3,984	597,116	883,052
研修・施設会場費	0	22,000	30,864	30,000	139,600	222,464
地代・家賃	251,552	251,553	251,553	251,553	251,553	1,257,764
水道光熱費	27,573	27,573	27,574	27,574	27,574	137,867
保険	0	27,064	7,230	17,020	0	51,314
諸会費	448	448	93,508	448	448	95,300
支払い手数料	27,269	34,027	27,991	1,055,685	40,481	1,185,453
返還金	0	0	0	0	0	0
為替差損	187	188	188	188	188	939
雑費	162	53,953	162	162	6,441	60,880
租税・公課	14,000	14,000	14,000	14,000	14,000	70,000
その他経費計	523,007	4,228,641	757,661	15,717,117	3,615,112	24,841,538
事業費計	811,759	6,527,789	1,255,918	18,436,423	8,139,919	35,171,808

▶監査報告書



# ご支援・ご協力いただいたみなさま

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの活動へのあたたかいご支援、ご協力に、心より感謝申し上げます。

ご支援・ご協力をいただいた皆様に順不同で紹介させていただきます。

## 助成金

ベネッセ子ども基金、日本財団、日本労働組合連合会愛のカンパ、財団法人 電通育英会、庭野平和財団、一般財団法人まちづくり地球市民財団、大阪コミュニティ財団、西武信用金庫街づくり助成金、TOTO 株式会社 水環境基金、一般財団法人 国際協力システム、日本郵便株式会社、東京都労働局、東京都産業労働局、東京都雇用労働課

## 寄付・協賛協力

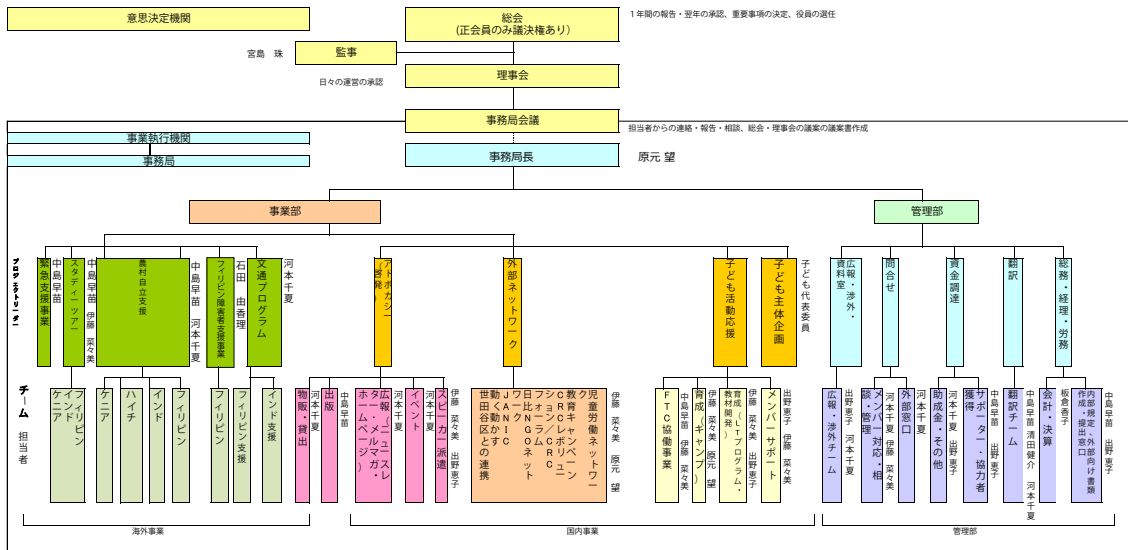
日本バプテスト厚木教会、111 ワンワン、桃山学院高校 SBS 首藤崇志、横浜市立平塚中学校、聖明園後援会、鳥取県立鳥取東高校英語部、聖ヶ丘太極拳同好会、世田谷区立桜丘中学校、青山学院大学国際マネジメント研究科、橋本市立あやの台小学校、武蔵野牛乳食品株式会社、神奈川県立有馬高等学校、加藤学園院秀高等学校、鹿児島県立大島高等学校 1 年 5 組、カティアインターナショナルスクール東京、アセア湘南高等学校、スウな本屋、バリミキ・フィリピン、横浜雙葉高等学校、駒沢学園女子高等学校、株式会社 F.O. インターナショナル、香川県立観音寺総合高等学校、明治学院高等学校、厚木幼稚園、株式会社 チョダ、特定非営利活動法人アークス仏教国際協力ネットワーク、合同会社ケ・エス・エムインターナショナル、株式会社フイズ インフィニティ、株式会社 JG マーケティング、特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター、財団法人 H2O サツタ、gooddo 株式会社、ソフトバンクがして募金、TM コミュニケーションサービス株式会社

## 活動協力 千鳥屋総本家株式会社

## メディア掲載

中学生公民教科書、英語教科書 ONE WORLD、ソトコト 2 月号、フィリピンプライマー、CNN Philippines、まにら新聞、The Philippine STAR NEWS、NHK NEWS 首都圏ニュース、NHK NEWS Web、81.3FM J-WAVE ~JK RADIO~ TOKYO UNITED、トジョウエンジン、Rhythmoon、ニュース和歌山、NHK「視覚障害ナビ・ラジオ」、点字毎日 活字版・点字版、朝日新聞デジタル（和歌山）、毎日新聞地方版（和歌山）、グローバルネット、毎日新聞 全国版、まにら新聞、毎日新聞、琉球新報、WORMO、ラジオ沖縄 思いやり交差点、Excite ニュース FP ジャーナル、Yahoo! ニュース

## 組織図・概要



特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン  
設立年月：1999 年 1 月 1 日

### 法人格

2004 年 9 月 21 日東京都より「NPO 法人」認証  
2012 年 3 月 16 日国税庁より「認定 NPO 法人」認証  
2017 年 3 月 13 日東京都より「認定 NPO 法人」認証  
法人格：特定非営利活動法人

### 事務所所在地

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 6-6-5 3F  
代表者：中島早苗

メンバー数：1,500 名、正会員数：33 名  
役員・顧問役員：12 名（理事 10 名、監事 2 名）、  
アドバイザー 2 名

事務局員：専従スタッフ 6 名、非専従スタッフ 2 名  
インターン 3 名  
事務局ボランティア 5 名、翻訳ボランティア 20 名

### 役員一覧

代表理事 中島 早苗  
副代表理事 永野 恵理  
副代表理事 出野 恵子  
理事 志賀 アリカ  
理事 藤井 裕子  
理事 佐藤 美紗子  
理事 二木 緑葉  
理事 羽仁 カンタ  
理事 風間 ゆたか  
理事 林 大介

会計監事 宮島 珠  
事業監事 伴野 保志

### アドバイザー

堀内 光子（ほりうち みつこ）氏  
労働問題や女性の権利の分野での研究・専門家。  
文京学院大学大学院特別招聘教授及び公益財団法人  
アジア女性交流・研究フォーラム 理事長、地球憲章国際  
審議会委員、児童労働ネットワーク 代表。  
2006 年よりフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの  
顧問として活動をサポート。

河合 将生（かわい まさお）氏  
NPO・NGO の組織基盤強化やファンドレイジング、  
マネジメントのコンサルタントや、組織の協働・  
連携のコーディネート及び国際協力やキャリア育成に  
関する相談・講演を行う office musubime の代表

# TOGETHER WE WILL *change the World*

特定非営利活動法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 6-6-5 3F

TEL : 03-6321-8948

info@ftcj.com www.ftcj.com